

可児工場 バイオマスガス化設備新設について

地球温暖化問題は、国際社会が一致して取り組むべき課題であり、当社も環境保護の見地から、CO₂削減対策として、古紙の有効利用、バイオマスエネルギーの利用推進に取り組むと共に、海外植林を積極的に進めています。

この一環として当社可児工場(岐阜県可児市)に平成 20 年度完成予定でバイオマスガス化設備(アップドラフト式ガス化炉)を新設し、国内初の製紙用石灰焼成炉へのバイオマスガス利用の実用化を図ります。

新設するバイオマスガス化設備では、木屑(建築廃材・林地残材等)を主原料としてガス化炉で蒸焼きにしてガスを発生させ、そのガスを石灰焼成炉で重油と混焼する事で重油使用量を半減します。これにより、現在可児工場で使用している化石燃料(重油・灯油)の一部(熱量ベースで約 20%)がバイオマス燃料に置換わり、CO₂排出量が年間 21,500 トン削減となります。

また、バイオマスガス化設備新設により、全エネルギーに占めるバイオマス・廃棄物燃料エネルギーの構成比率は、バイオマス燃料のパルプ蒸解廃液(黒液)やカットタイヤ・RPF等の廃棄物燃料と合わせて、現状の 87%から 90%となります。

《可児工場 使用燃料別エネルギー構成比率(熱量ベース)》

		現 状	バイオマスガス化 設備新設後	
化石燃料エネルギー	重油・灯油	13%	10%	
バイオマス・廃棄物 燃料エネルギー	黒液・木屑 RPF・カットタイヤ等	87%	90%	(3%増)

可児工場では、バイオマスボイラー1基を平成 16 年より稼動運転し、既に蒸気製造用設備のオイルレス化を図っています。更に、パルプ薬品工程(焼成石灰炉)や製紙工程(熱風炉)における化石燃料の削減に取り組んでいくことで工場の完全オイルレス化を目指し、化石燃料から地球環境にやさしいバイオマスエネルギーへの転換による環境保護に取り組めます。

《新設バイオマスガス化設備仕様》

投資額

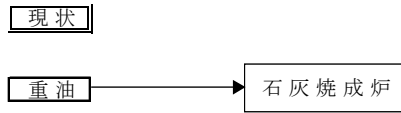
14 億円

主に使用する原料

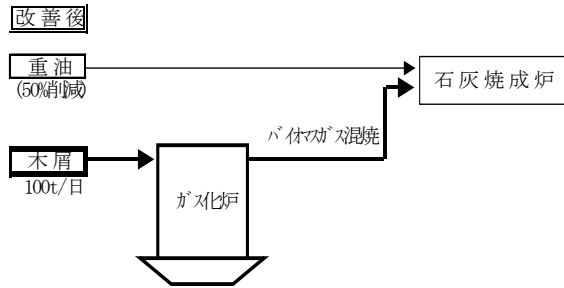
木屑 (建築廃材・林地残材等)

バイオマス原料使用量

100 トン／日



ガス化方式



アップドラフト式ガス化炉